

## 1年生が「高志学」嶺南宿泊研修を行いました

5月14日（火）～16日（木）の3日間、1年生90名が嶺南で宿泊研修を実施しました。

「行こっさ三方 つくろっさ友情 広げよっさ福井の魅力と仲間の輪」をスローガンに、これから6年間で共に過ごす仲間との関係を広げ、嶺南の魅力について理解を深める様々なプログラムを体験しました。

今回の研修成果は、9月の学校祭で展示・発表する予定です。

### 第1日目（5/14）

#### 【カッター体験】

7:30に高志中学校を出発し、国立若狭青少年自然の家に入り、カッター（小型船）体験をしました。24人が乗船し、艇長の掛け声のもと、力を合わせて海に漕ぎ出しました。2人で1本の櫓を操るのですが、それは想像以上に難しく、生徒たちは四苦八苦していました。しかし、艇長の細かな指示によりコツをつかみ、さらに大きなかけ声を出すなど一体感が出てくると、カッターはスルスルと進み出しました。生徒たちはその爽快感に大きな歓声をあげていました。



カッター体験



キーホルダー作り

#### 【福井県海浜自然センター研修】

国立若狭湾青少年自然の家で昼食をとった後、福井県海浜自然センターに移動しました。当初、館内見学（3Dシアターを含む）と磯の生き物観察の2つの研修を行う予定でした。しかし、午前中は何となくもっていた天気がいかに崩れ始め、断続的な雨に雷が混じる、という悪コンディションとなってしまいました。そのため磯の生き物観察は取りやめ、その代わりにキーホルダー作りと館内クイズラリーを行いました。

3Dシアターでは近海の生物の様子や海岸の地形などを学びました。

館内見学では職員の方の解説を聴きながら、海の生物の不思議な生態などについて熱心にメモを取る姿が印象的でした。

キーホルダー作りは、透明のプラスチックのシートに、デザイン例をマジックで写し取り、さらに着色し、それを加工してもらう、というものでした。デザイン例の色をそのまま塗るのではなく、オリジナリティのあるデザインにしようと工夫する姿が見られました。

## 第2日目 (5/15)

### 〔若狭三方縄文博物館研修〕

研修2日目は、宿泊する三方青年の家周辺にある諸施設での研修でした。各クラス単位でローテーションしながら研修を受けました。午前中は若狭三方縄文博物館での研修でした。

#### ① 土笛作り

土笛作りでは、講師の指導のもと、粘土を丸め、伸ばし、ギョウザ状にして（中に空洞を作って）笛の原型を作りました。それに穴を開け、縄や貝殻、竹べらなどを使って模様付けをしました。笛はその後、施設内にある専用の窯で焼かれ、完成となります。生徒たちは自分の作った土笛の音に思いをはせている様子でした。

#### ② 火おこし体験

火おこし体験では、軸棒・横木・紐などで作られた道具を火きり板に回転させながら擦りつけることによって火種を作り、それをもとに火をおこしました。3人一組で行いましたが、最初はどううまくいかず、指導者の力を借りてようやく火をおこせた、というグループが多かったようです。しかし横木を最後まで下ろさずにリズムカルに動かすというコツを飲み込むと、あちこちで火がおこり、歓声があがりました。



土笛作り



協力して火をおこします

#### ③ 若狭三方縄文博物館 館内見学

講師の先生の案内・解説のもと、館内の見学を行いました。生徒たちは、想像以上に進んでいた縄文人の生活や彼らの精神世界を垣間見て、驚きの声をあげていました。今回の研修後に作成するレポートの材料を収集しようと、精力的に館内の資料を見て回っていました。

### 〔福井県年縞博物館研修〕

午後は昨秋に新規オープンした福井県年縞博物館での研修でした。福井県年縞博物館の施設見学と、博物館所属の北川淳子氏による年縞の観察実験は全クラスが行いました。もう1つのプログラムである講義は、各クラスが別の講義を聴き、当日 17:00 からの相互発表会（3人一組）で、他クラスの生徒に自分の受けた講義の内容を伝えました。

### ①福井県年縞博物館見学

クラスを2つのグループに分け、それぞれ学芸員による詳細な解説を聴きながら博物館内を見学しました。初めて年縞を見る生徒も多く、その学問的価値の高さに驚いていました。

### ②年縞の観察実験

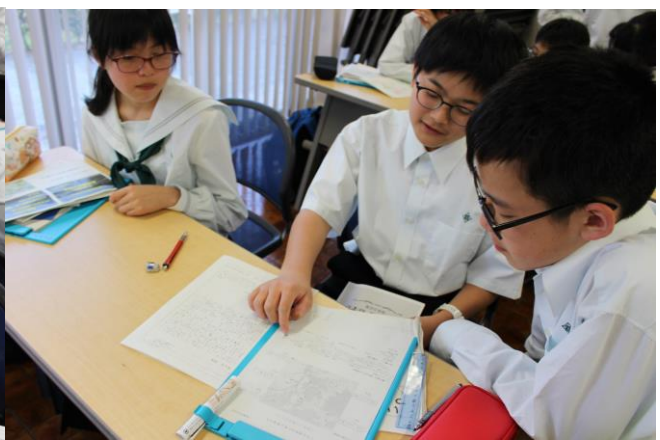
年縞に関するレクチャーを受けた後、年縞（ポーリングした実物）を顕微鏡で観察しました。様々なものが観察でき、「こっち（自分の操作している顕微鏡）に面白いものが見えているから、みんな来て！」などの声があがっていました。

### ③講義

「三方五湖周辺の里山里湖文化」、「水月湖の年縞について」、「三方湖の自然護岸の再生」というテーマの講義を受けました。



年縞の実物を顕微鏡で観察



相互発表の時間

## 第3日目 (5/16)

### 【福井県里山里海湖研究所研修】

研修最終日となる3日目は、福井県里山里海湖研究所による研修でした。全体を2つに分け、三方湖周辺での野鳥観察と、学びの森（三方上中郡若狭町気山周辺）での間伐作業見学、のこぎり木切り体験を行いました。

#### ①野鳥観察

三方湖周辺で、講師の先生方の指導のもと、野鳥観察を行いました。生徒は一人一台の双眼鏡を持ち、熱心に観察を行いました。生徒たちは、双眼鏡の扱い方のコツをつかむと、様々な種類の野鳥を発見し、講師の先生の解説に聴き入っていました。

#### ②間伐作業見学

なたしょう森林組合 所属の先生の実演で、間伐作業を見学しました。作業に入る前に、間伐の必要性や方法、最終的に有用材は100㎡で何本残るのか、といったことのレクチャーを受けました。生徒たちは、「100㎡に25本の苗木を植えるけれど、最終的には2~3本しか残らないのか」、「直径70cmまで育てるのが目標なんだね」といったことを話しながら、間伐作業の現場へと入って行きました。

チェーンソーの大きな音、それが木に食い込んでいく時に飛び散るおがくず、そして木がゆっくりと傾き、突如勢いを増して倒れていく様子を生徒たちは息を殺して凝視していました。そして作業が終わり

った後、倒れた木のところで空を見上げると、作業前は差し込んでこなかった日光がさんさんと降り注いできました。生徒たちはその違いに驚き、素直に感動していました。

### ③のこぎり木切り体験

4～5人のグループに分かれ、体験を行いました。3種類の木材（杉、桜、雑木）と2種類ののこぎりが用意されました。「のこぎりは両手で持って。足は広げて構えないと、木を切った瞬間に足も切ってしまうよ」、「のこぎりは引くときに軽く力を入れて。押すときに力を入れても木は切れないよ」などと指導を受けつつ、生徒たちは熱心に作業を行いました。



間伐作業を見学



熱心に木を切ります